

コロ・ファーチレ *Coro Facile*

その時演奏する曲を歌いたいメンバーが、自由に集まって、演奏活動を続けている。ファーチレ *facile* は「お気楽に」歌おうという意味で名づけた。

指揮は1989~'92年(故)上元芳男氏、'93年は横山直樹氏、'97年から加納明洋氏。

合唱指導は創設時から(故)板谷基雄氏夫妻、2015年からは知子夫人。

これまでの演奏曲は、ヘンデル「メサイア」全曲演奏、モーツアルト「レクイエム」、バッハ「マタイ受難曲」「マニフィカート」「モテット第3番」「カンタータ第4番ほか」、モンテヴェルディ「聖母マリアのタベの祈り」(道内初演)、ブーラング「スタバト・マーテル」(道内初演)、フォーレ「レクイエム」、メンデルスゾーン「エリア」(道内初演)「讃歌」、D.スカルラッティ「スタバト・マーテル」など。

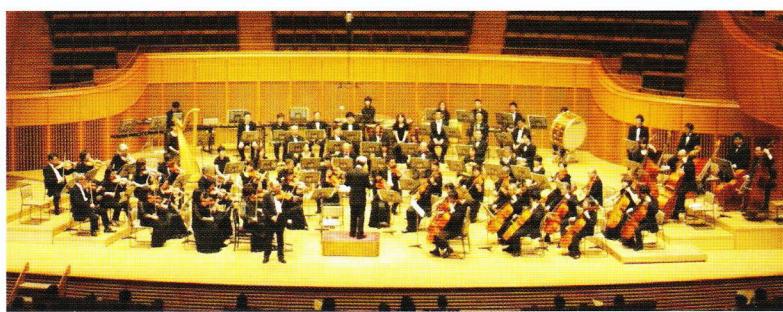


千歳フィルハーモニー交響楽団 *Chitose Philharmonic Orchestra*

“多くの方々に気軽にクラシック音楽を楽しんでいただきたい”を合言葉に、1994年2月に設立しました。

これまで40回の自主公演のほか、バラエティーに富んだ音楽教室など数多くのコンサートを開催しています。さらに小中学校での訪問演奏やイベント等での演奏活動も積極的に行い、その活動は札幌コンサートホールKitaraなど道内6都市に及んでいます。2008年には指揮者、小林研一郎氏を招き、千歳市市制施行50周年を記念する「炎の第九演奏会」を成功させ話題を呼びました。

結成当時20人ほどであったメンバーも現在では3倍以上となり、9万8,000人のまちに60人以上を擁する本格的な管弦楽団。千歳フィルハーモニー交響楽団の活動は、市民はもとより音楽関係者からも期待と注目される存在になっています。



混声合唱団コールプリマ *Mixed Chorus Choeur Prima*

平成5年5月、「心に響く歌を歌おう」をモットーに則竹先生を指導者に設立しました。

一年に一度の定期演奏会と、病院、施設を訪問しボランティアコンサートをさせていただくことを目的に日々練習し、活動の柱としています。

合唱指導：則竹正人先生 ピアノ：塚本のぞみ先生

ボイストレーナー：齋藤香織先生



指揮者: 加納 明洋 *Akihiro Kano*

1956年、北海道小樽に生まれる。1980年、東京音楽大学指揮科卒業後、東京オペラプロデュースで音楽スタッフの一員を務める。その後、藤原歌劇団に副指揮者として加わり、数多くのイタリア人マエストロのもとで、ドニゼッティ、ヴェルディ、プッチーニの主要作品を勉強する。

1988年、イタリア、シエナに留学する。帰国後、二期会のイタリアオペラの主な公演の副指揮者を務め、多くは合唱指揮者を兼任した。1997年からフリーの指揮者となり、数多くのオペラ公演、コンサート等の指揮をしている。

また、2004年から作曲創作活動にも力を注いでいる。平成15年度第26回文化庁舞台芸術創作奨励賞に於いて「叙情合唱組曲〈酒呑童子〉ピアノとマリンバと混声合唱の為の」が創作奨励特別賞を受賞。また、無伴奏男声合唱組曲「ウシヨロ鯨漁師連祷歌」が第16回朝日作曲賞佳作入選を果たし、2006年には管弦組曲「Negation of Peter's for Orchestra」が日本交響楽振興財団主催の第28回作曲賞の奨励賞に入選し、山下史指揮、東京交響楽団にて初演された。更に、2007年には「作品番号の無い交響曲〈鉄はまだ成らず〉」が前年度に引き続き日本交響楽振興財団主催の第29回作曲賞の奨励賞に入選し、小松一彦指揮、東京フィルハーモニー交響楽団によって初演された。

また同年、ルクセンブルグ国際作曲コンクールにおいて3位入賞し、その作品はマルセル・ヴェングラー指揮、ルクセンブルグ・シンフォニエッタによって初演された。また、2016年ウクライナのリヴィウで行われた第1回アルフレート・シュニトケ国際作曲コンクールにおいて、Special Mention(特別賞)を受賞し、受賞作品“Corpus Sonans”はロマン・クレスレンコ指揮、ランブル・シンフォニエッタによって初演された。

現在、東京音楽大学指揮科講師(指揮部会所属)。



ソプラノ独唱: 芳野直美 *Naomi Yoshino*

J.S.バッハ「マタイ受難曲」、同カンタータ51番、82番、147番、199番、202番ほか多数のカンタータ、ヘンデル「メサイア」、モンテヴェルディ「聖母マリアのタベの祈り(北海道初演)」、メンデルスゾーン「エリア(北海道初演)」、同「交響曲第2番『讃歌』」、モーツアルト「レクイエム」等宗教曲のソリストを多く務める。ソロリサイタルを2009年より開催しており、本年5月も無事に開催、日本歌曲でも好評を得ている。

札幌市主催第460回市民ロビーコンサート出演。札幌交響楽団主催「アキラさんの大発見コンサート」、「オケパンねコンダクター」にて、『幸せのリズム』前説(お客様へのレクチャー)および本番での歌唱担当。

声楽を故・板谷基雄、故・鈴木寛一、波多野睦美各氏に師事。発声基礎レッスンを陣内麻友美氏にお願いしている。デボラ・ヨークマスタークラス、つのだたかし、マウリツィオ・コラチッキ公開レッスン受講。エマ・カーカビー公開レッスン聴講。2018年に3ヶ月間ドイツに滞在、クラウディア・インマーの元でさらなる研鑽を積んだ。2019年3月より、札幌および北海道では初めて「Bach in the Subways(バッハ・イン・ザ・サブウェイズ)」に参加。札幌大学女子短期大学部国文学科卒業。札響合唱団(ソプラノパートリーダー)、JAF交通安全ドレミぐるーぷ所属。個人・グループへのボイストレーニングを隨時行っている。

テノール独唱: 岡村俊二 *Syunji Okamura*

武蔵野音楽大学声楽科を卒業。

札幌市新人演奏会、日本演奏家連盟推薦新人演奏会、ベートーベン「第九」、モーツアルト「レクイエム」等、数多くのコンサートにソリストとして出演。また札幌市内の音楽教師を中心に結成したヴォーカルアンサンブル「IZANAI」を通じ、生徒などに音楽の楽しさを広げる活動を続けている。

現在、恵庭混声合唱団、混声合唱団アル、札幌メールクワイア、コール・ドルチェ各指揮者。北海道フーゴー・ヴォルフ協会会員。



バリトン独唱: 則竹正人 *Masato Noritake*

東京藝術大学卒業、同大学院修了。

1982年札幌大谷短期大学に就任以来、北海道を中心に行なう演奏活動を行なう。

オペラでは「フィガロの結婚」伯爵、「魔笛」パパゲーノ、「リゴレット」タイトルロール、「愛の妙薬」ドゥルカマーラほか、多数出演。2010年新国立劇場での公演「月を盗んだ話」にペトルス役で出演。リサイタル開催のほか、「メサイア」「マタイ受難曲」「第九」等多数のコンサートのバス・ソロに招かれている。

2001年札幌文化奨励賞、2012年札幌市民芸術祭奨励賞、2016年札幌市民芸術祭大賞、2017年札幌芸術賞受賞。合唱指導も行い、「雪柳会」「札幌市役所声友会」「コール・プリマ」「札幌大谷フラウエンコール」の常任指揮者を務める。

現在、札幌大谷大学芸術学部音楽学科客員教授。札幌音楽家協議会、ハイスマースチスト各会員。

